

「もう一度、触れて」

—初稿—

2026/9/18

脚本 太郎

へ人物表へ

須藤 譲 (29)

サラリーマン

1. 駅・階段（昼）

一カッチリとしたビジネススーツを着たサラリーマン、須藤譲（29）、息を切らせながら階段を上っている。手には黒革のビジネスバッグ。

腕時計を確認。

斜め上を見る。階段は果てしなく続いており、先が見えない。

左隣を見る。

サラリーマン数人が、須藤と同じように息を切らして階段を上っている。

須藤、右隣りを見る。

窓の外、ひたすら真っ白い空間が広がっている。

何人かのサラリーマンが倒れる。

須藤、それにビクリと反応。

駆け出す。

2. 駅・全景（昼）

広大な真っ白な空間の中。ホームや線路、渡り廊下、改札といった駅の施設が縦横無尽に、雑に増設され折り重なるようにして、無限に広がっている。
遠い上空には巨大な張りぼてのような太陽が、幾つかの風船に吊るされて浮かんでいる。

3. 駅・ホーム（昼）

須藤、階段の場で息を切らせている。

ベンチには、憔悴した人々が何人も座りこんでいる。

アナウンス「間もなく、6億番線に、電車が参ります。勝手にしてください」

ベンチに座っていた人々、のっそりと立ち上がる。

フラフラと前に進む。

電車が見え始める。走行音。

人々、ホームから落ちる。

須藤 「えっ」

電車が人々に衝突。

電車、簡単に脱線。

横転し、地面との摩擦に火花。須藤に向けて迫ってくる。

須藤、悲鳴を上げて走り出す。

ホームの端まで迫る。

飛び降りる。

すぐ下にも線路があり、丁度別の電車が走行中。

4. 電車・屋根

須藤、電車の屋根の上に倒れている。

ゆっくりと身を起こす。

真つすぐ前を見ている。

スマホを取り出し、操作する。

5. 電車・全景（夜）

発信音。

電車、真つ白な空間の中、駅の施設の合間を縫って、真つすぐに走っていく。

6. 駅・コンコース（夜）

真つ暗な寂れたコンコース。

いたるところに電車のドアや改札のゲートが突き立っている。

アサルトライフルを持った駅員の着ぐるみが何体も、辺りを徘徊している。

須藤、1つのドアに背中を預け、肩でスマホを挟んで通話しながらノートパソコンを激しく操作している。

駅員1の声「発射いたします。発射いたします」

銃声。

悲鳴。

須藤 「はい、はい。今送信いたしました。はい、その件でしたら……承知しました。すぐ確認します」

駅員2の声「ご注意ください」

悲鳴。

銃声。

須藤 「はい、明日こそ必ず」

須藤、駅員1と目が合う。

緊張で顔が歪む。

苦しそうな決意の表情。

須藤、ノートパソコンの下に隠していた拳銃を突き

出す。

発砲。

駅員1が顔を庇って怯む。

須藤、走り出す。

須藤 「明日こそは」

銃を撃ちながら走る。

須藤 「何が何でも明日こそは、死んでも出社致しますので」

7.

橋（夜）

真っ暗な空間の中、大きな三日月のハリボテと無数の星のハリボテが、それぞれ風船に吊るされて浮いている。

真っすぐ伸びる橋。須藤が自転車で走っている。

その後ろを電車が追う。電車の窓、内側から血で染まっている。

須藤、一心不乱に自転車を漕ぐ。

電車、徐々にスピードを上げる。

前方に改札口が見えてくる。

須藤、胸ポケットからスマホを取り出す。

スマホカバーにはPASMIOが入っている。

須藤、スマホを前方へ向けて勢いよくかざす。

咆哮。

須藤、改札口の眼前に至る。

「カードリーダーに勢いよくスマホを叩き付ける。

ピンポーン、という音。

改札音声 「もう一度、触れてください」

須藤、閉まったままのフラップドアに自転車をぶつ

ける。

派手に転倒。

顔を上げ、焦燥感に満ちた表情。

手を伸ばし、スマホをICカードリーダーに叩き付ける。

改札音声「チャージしてください」

須藤、絶望の表情。

悔しそうに改札に拳を叩き付ける。

項垂れる。

再び拳を握り締める。

振り向きざま、拳銃を発砲。

銃弾は電車に当たるが、止まらない。

須藤、諦めていない表情。

再び発砲。

銃弾は電車に当たるが、止まらない。

電車は須藤の目前まで迫る。

須藤、雄たけびを上げ、再度発砲。

終